

意見具申に向けた論点整理(案)

- ・小笠原諸島の振興開発に係る現状認識 P1
- ・主な論点
 - (1)交通基盤の整備 P2
 - (2)産業振興 P3
 - (3)生活環境、定住促進 P4-P6
 - (4)自然環境の保全等 P7
 - (5)再生可能エネルギーの利用 P8
 - (6)防災 P9
 - (7)観光の開発と交流の促進 P10
 - (8)DXの活用について P11
 - (9)旧島民の帰島促進 P12

小笠原諸島の振興開発に係る現状認識

1. 小笠原諸島振興開発の意義

- ・小笠原諸島は、東京から南へ1,000Km離れた太平洋上の隔絶した外海に位置。
- ・昭和19年、軍属を残して約7千人の住民が本土に引き揚げ、終戦後は米軍の直接統治下に置かれ、23年間の空白を経て昭和43年6月に日本復帰。
- ・令和5年に本土復帰55年を迎える小笠原諸島においては、様々な不利性を克服するため、産業の振興や社会資本の整備について諸施策が実施されてきた。
- ・社会資本の整備が着実に進むなど、一定の成果が見られる。
- ・小笠原諸島は豊かな自然環境に恵まれ、世界的に見ても特異な生態系を有する重要な地域であり、他の地域にない魅力・価値を有している。
- ・一方、生活面等での本土との格差がいまだ残されており、引き続き、社会資本等の整備を進めていくことが必要。

2. この5年間の動き

- ・新型コロナの影響により、観光客が大幅に減少。
- ・新型コロナやウクライナ情勢等の影響により、資源・エネルギー価格が高騰し、物価が高騰。
- ・脱炭素社会の実現やデジタル田園都市構想が我が国の重要政策に。
- ・世界的な安全保障環境の悪化により、有人国境離島としての役割が再評価。

主な論点(1)交通基盤の整備

- 現在唯一の定期交通手段となっている航路の安全、安定的な運航の確保のため、港湾施設の老朽化対策や防災(耐震)対策の継続的・計画的な推進
- 防災や緊急時の安全安心の確保のため、世界的に貴重な自然環境に影響を与えない規模での航空路の整備

港湾関係



父島二見港の岸壁の老朽化対策を、実施中。引き続き、耐震対策の着手を予定している。



父島二見港のクルージング船用の係船浮標について老朽化対策を予定している。

航空路関係

令和3年度の調査結果(航空機の開発状況等調査)

資料1-1

ATR42-600S



【機材の特徴】

- ・ 国内航空会社が定期便に利用しているATR42-600の派生型機
- ・ 小笠原において、1,000m程度の滑走路で離着陸可能

【開発状況】

- ・ EASA(欧州航空安全機関)の型式証明の取得に向けて試験中
- ・ 2022年5月、ATR42-600(現行機)の機体を使用して、部分的にATR42-600Sの機能を搭載した機体による飛行に成功
- ・ 2024年第4四半期に、EASAの型式証明取得を目指す

※開発状況については、令和4年度に調査した内容も含む。

AW609



【機材の特徴】

- ・ 世界初の民間型ティルトローター機
- ・ 滑走して離着陸する場合、400m程度の滑走路があれば、離着陸可能。また、ヘリポートでも離着陸可能
- ・ 飛行機とヘリの機能を併せ持つ航空機であるため、法令整備が必要となる可能性

【開発状況】

- ・ 米国のFAA(連邦航空局)の型式証明を申請中
- ・ 2022年末に、FAAの型式証明取得を目指す

第11回小笠原航空路協議会より

特に自然環境への配慮が必要となる地域

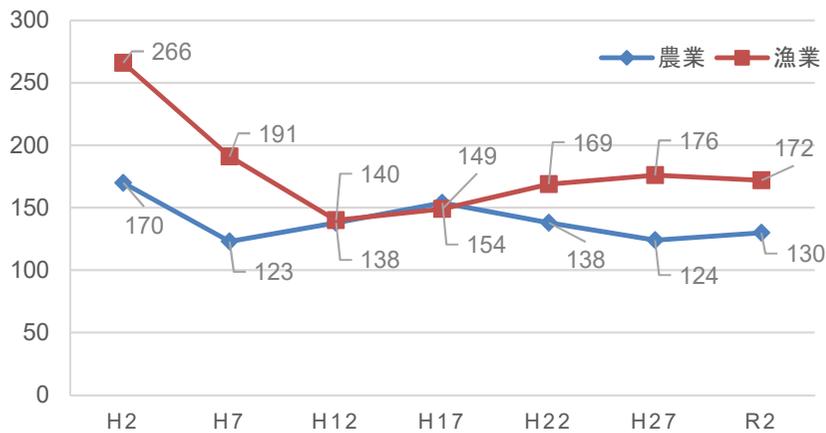


主な論点(2)産業振興

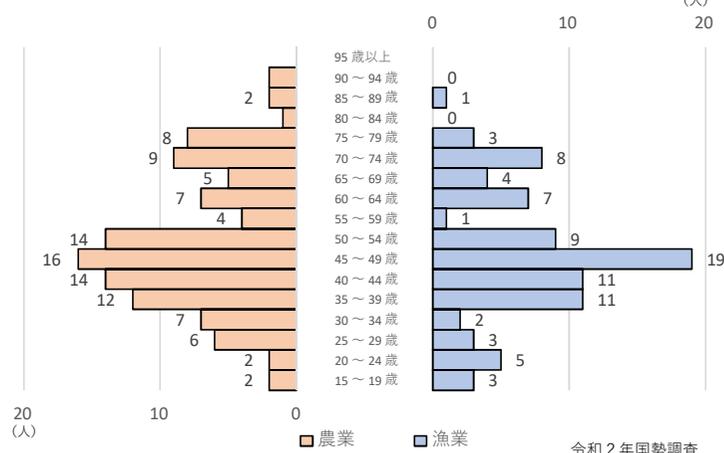
- 担い手確保が重要な農業・漁業の就業支援のさらなる推進
- 特産品のブランド化や付加価値向上に向けた取組の推進

担い手確保関係

小笠原村における就農・就漁人口推移



農業と漁業の年齢層別就業者数 (人)



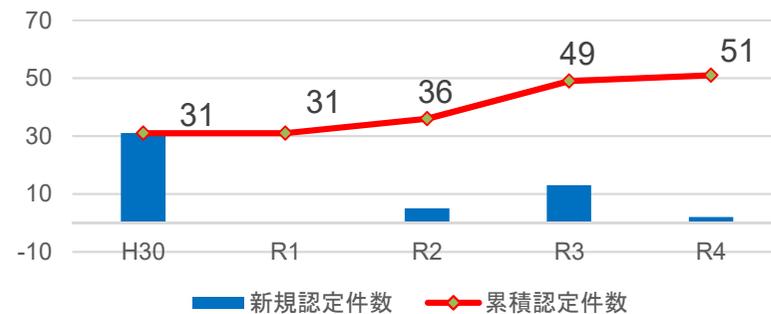
特産品のブランド化関係

小笠原ブランド

ブランド価値を高めるため、従来の特産品認定制度とは異なり、要領の基準を満たせば認定するのではなく、外部専門家により審査を行い一定の点数を得た商品のみブランド認定



小笠原ブランド認定件数



【ブランド商品例】 ※小笠原ブランドサイトより



薬膳島辣油



Pure Island Honey



小笠原レモンジャム



アカギのアクセサリ



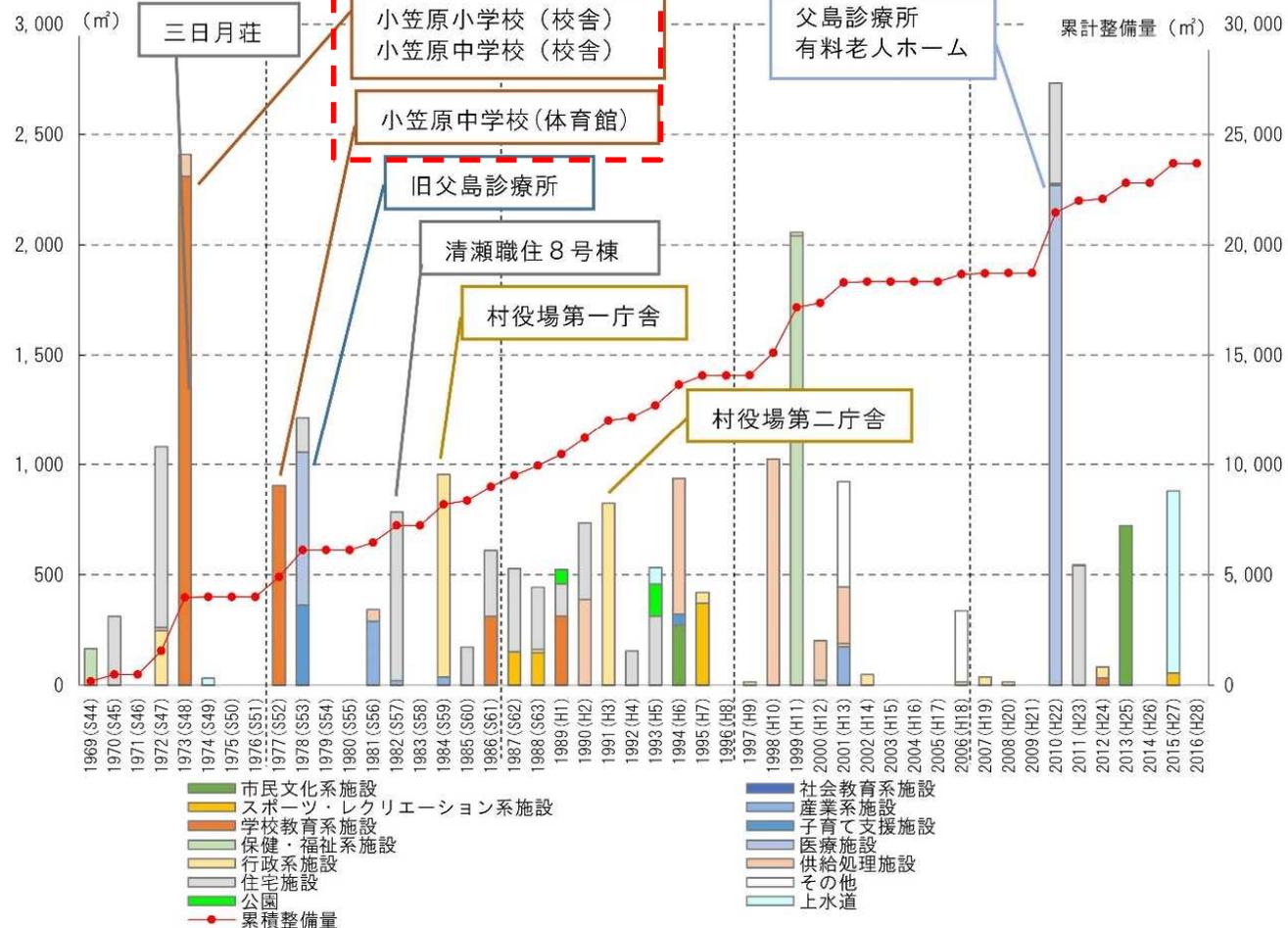
オリジナルデザインの手ぬぐい

主な論点(3)生活環境、定住促進①

○簡易水道の整備、学校施設の老朽化対策などの計画的な推進

建築年度別面積(父島)

小笠原小中学校校舎(昭和48年)は建設後45年以上経過

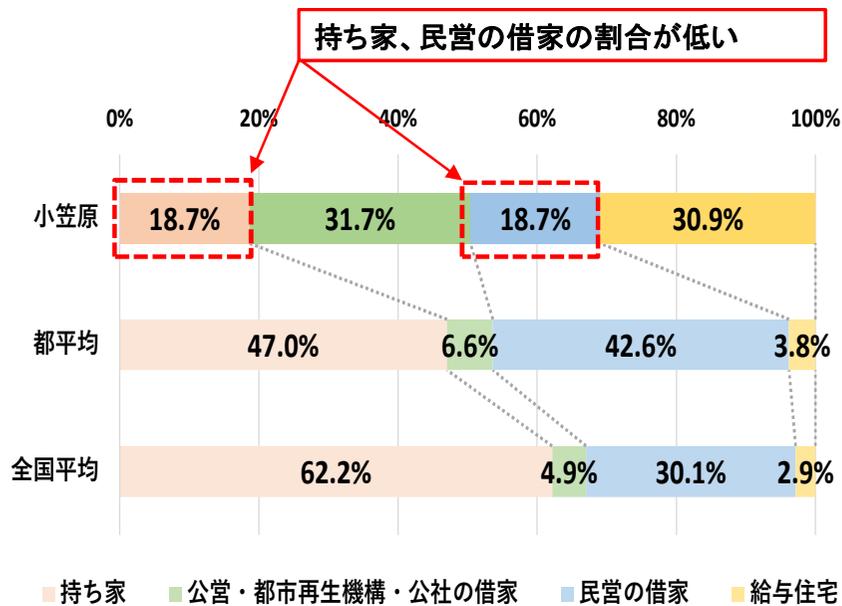


※小笠原村公共施設等総合管理計画(平成29年3月)より

主な論点(3)生活環境、定住促進②

- 民間の住宅供給に対する支援
- 住宅の建築コスト対策

住宅の所有状況構成比(主世帯数ベース)



離島工事指数表

地域別	指数
北海道	
奥尻島	125
礼文島	130
利尻島	
関東	
大島	117
八丈島	161
上記以外の伊豆諸島	150
小笠原諸島(南鳥島を除く)	221
北陸	
佐渡島	107
中国	
瀬戸内海の離島	105
四国	
隠岐諸島	122

地域別	指数
九州	
五島列島	119
対馬	124
壱岐島	117
大隅諸島	125
奄美群島	135
沖縄	
宮古島	114
石垣島	115
八重山列島(石垣島を除く)	130
大東諸島	148

内地の約2.2倍

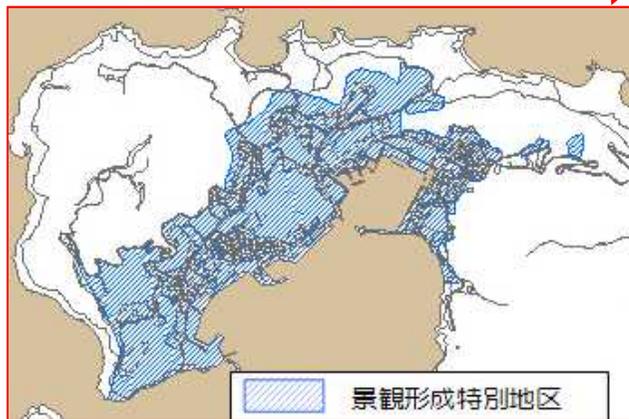
※北海道、本州、四国、九州、沖縄本島と橋梁で接続されていない島を対象とする。
 ※上記以外の離島については、実情に応じ計上する。

国土交通省 令和5年度新営予算単価より

主な論点(3)生活環境、定住促進③

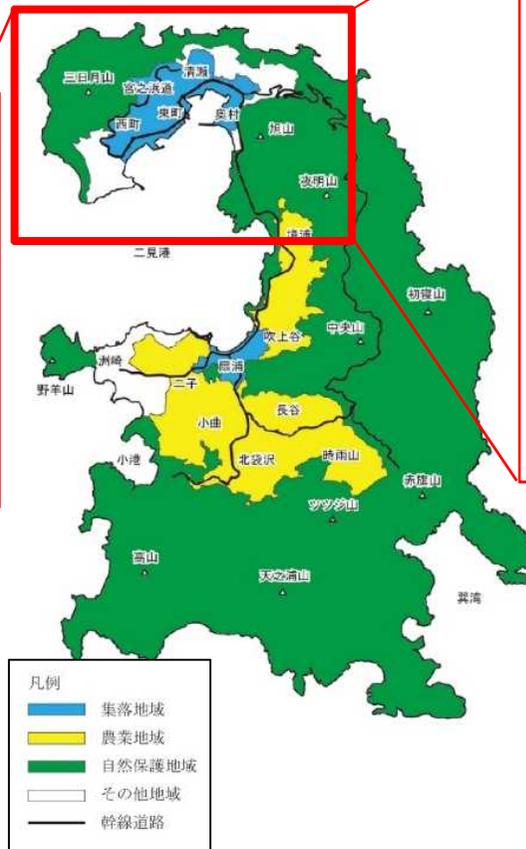
- 住宅不足を解消するための土地利用計画見直し
- 土地利用計画見直しに合わせた住宅整備計画の作成

景観形成特別地区
(父島二見港周辺)

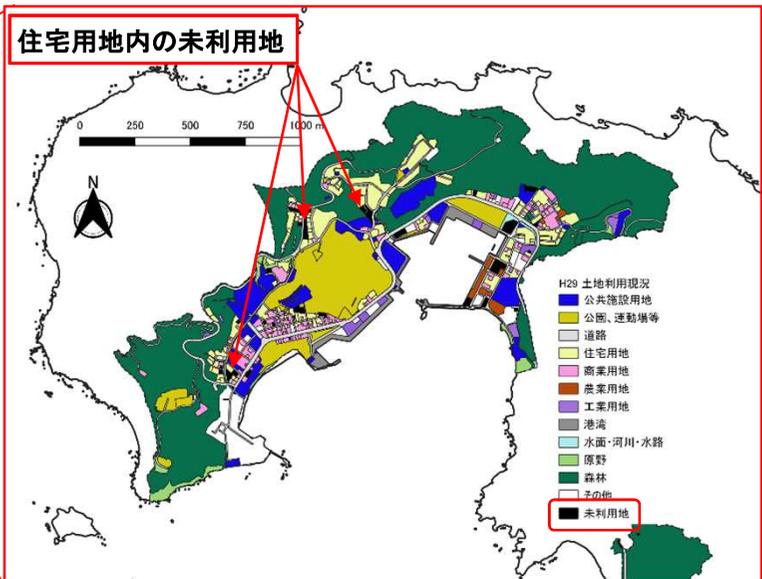


父島二見港周辺の集落地域の大部分は景観形成特別地区に指定されている

小笠原諸島振興開発計画
(令和元年度～令和5年度)
土地利用計画図



土地利用現況(父島 大村周辺)

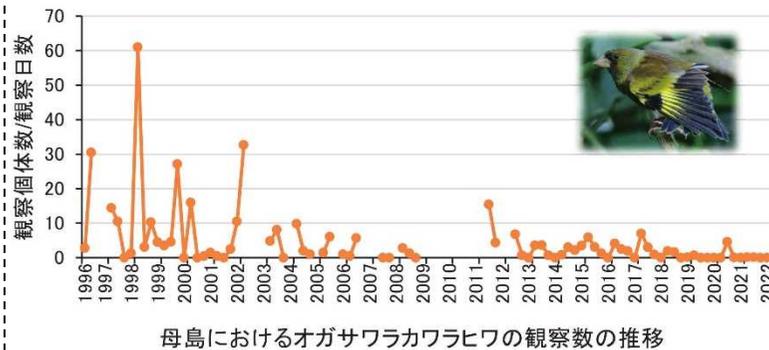
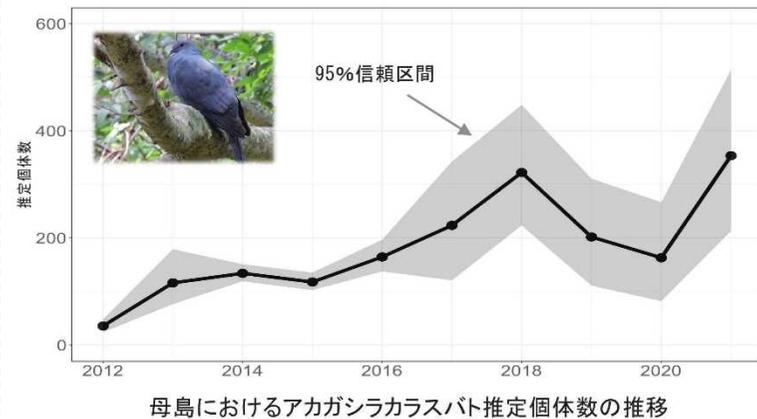


出典:平成29年度都市計画基礎調査

主な論点(4)自然環境の保全等

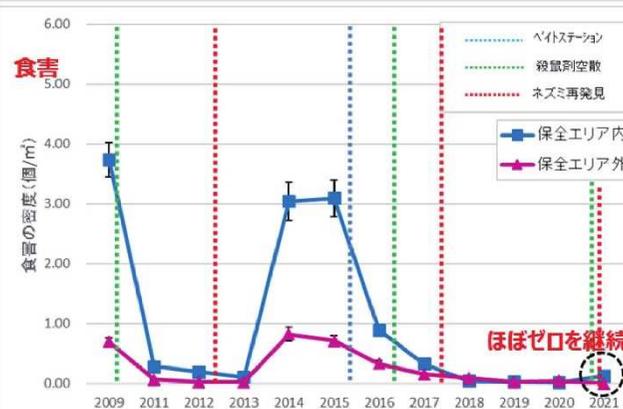
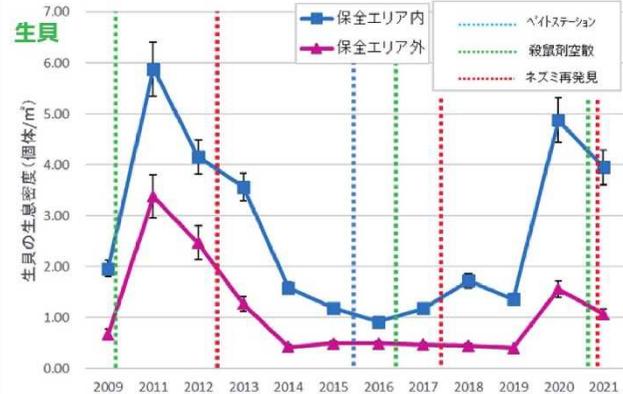
- 世界的価値を有する自然環境の保全、再生及び継承と、住民及び来島者に対する教育・普及啓発活動の充実
- 自然環境に悪影響を与えないよう、観光等の産業振興における十分な配慮

▶希少鳥類の保全状況



▶陸産貝類の保全状況

カタマイマイ属



母島に生息する固有陸産貝類

小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議「小笠原諸島世界自然遺産に関する基礎資料集(令和3年度版)」より

主な論点(5)再生可能エネルギーの利用

○遠隔離島であることや燃料価格の高騰、防災上の観点等を踏まえた自給可能な再生可能エネルギーの利用促進

PJ、億kWh 発電電力量と発電用エネルギー投入量（全国）



2021年度エネルギー需給実績(速報)参考資料より

(参考) 小笠原村の太陽光発電設備設置箇所

太陽光発電設置場所	発電容量(kw)
小笠原村診療所	50
地域福祉センター	10
小笠原村情報センター	5.5
都立小笠原高校	20
奥村交流センター	20
母島小中学校	50
母島長浜トンネル (独立)	5
母島ソーラーポンプ場 (独立)	32
扇浦新浄水場	22
扇浦交流センター	10.2
小笠原世界遺産センター	5.5
合計 (kW)	230.2

東京電力の発電能力(R3)

・ディーゼル発電総出力量

父島 5,200kw

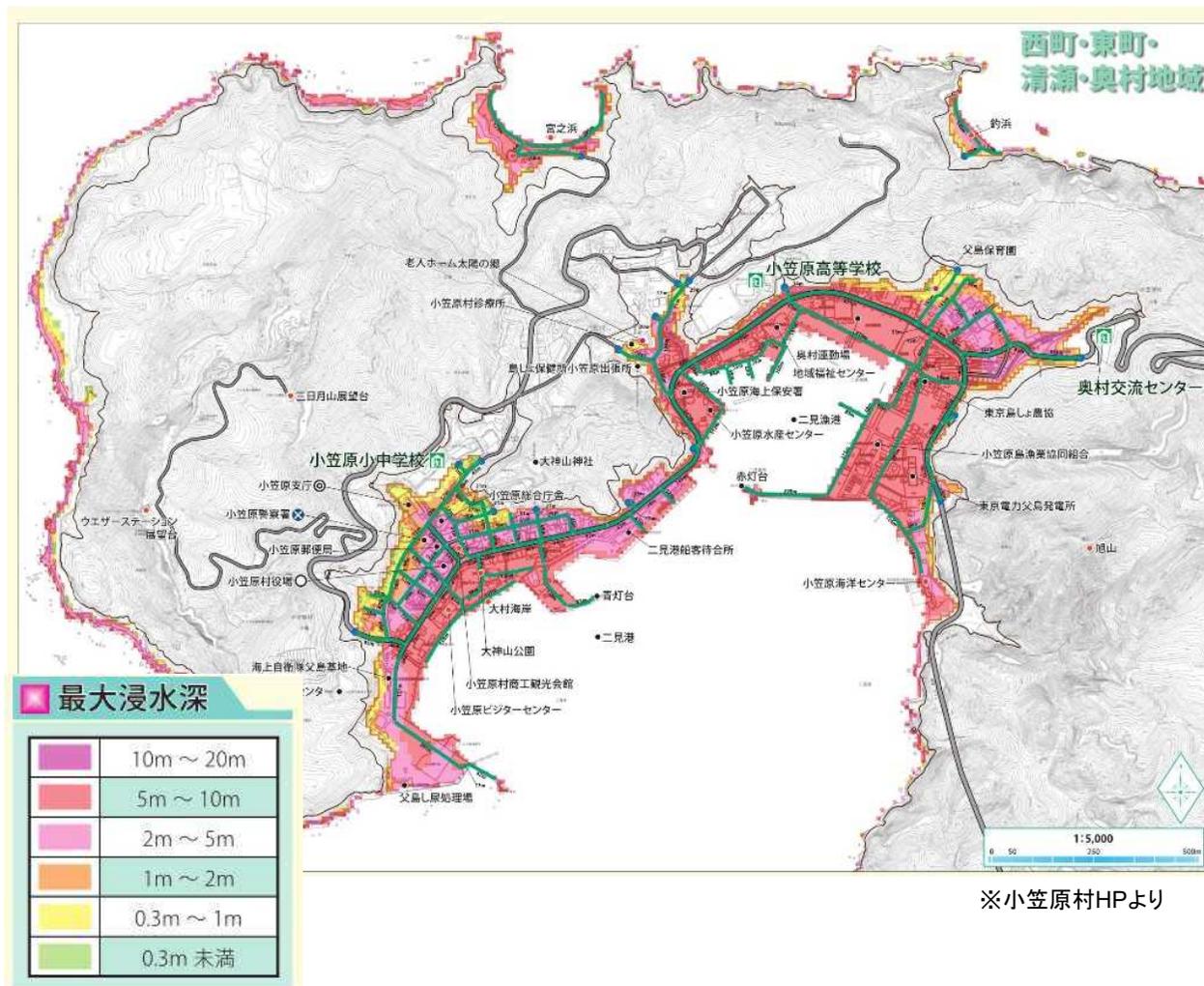
母島 960kw

発電能力に占める化石燃料シェアは約89%(R3年)

主な論点(6)防災

○台風・豪雨、地震・津波等の災害に備えた重要インフラや社会福祉施設の移転等の対策の推進

【代表事例：父島(西町・東町・清瀬・奥村地域)】津波ハザードマップ



津波浸水区域内にある公共施設の割合 (小笠原村施設)

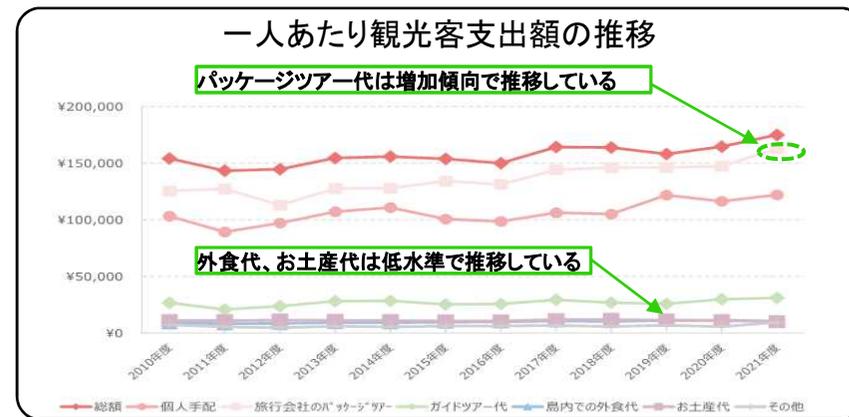
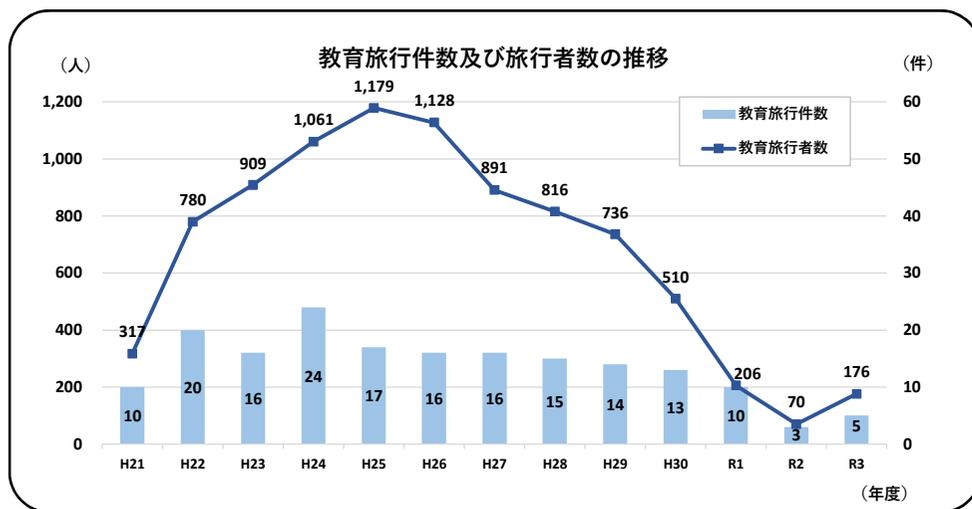
施設類型	区域外	区域内	区域内に立地する施設割合
スポーツ・レクリエーション系施設	2	7	77.8%
住宅施設	11	18	62.1%
学校教育系施設	5	6	54.5%
行政系施設	18	6	25.0%
医療施設	3	1	25.0%
その他	35	22	38.6%
計	74	60	44.8%

※データは「小笠原村公共施設等総合管理計画」改訂作業中(R5.3)の暫定数値を基に試算

約45%の施設が津波浸水区域内に立地

主な論点(7)観光の開発と交流の促進

- 教育旅行の受け入れ等を利用した若い世代に小笠原のことを知ってもらう機会の創出
- オーバーツーリズムを抑制し、観光消費額の客単価を上げる取組の推進
- インバウンドの調査分析に基づくエコツーリズムやアグリツーリズムなど世の中の変化に合わせた新たな観光のスタイルの開拓
- 国内外の地域との交流を促進するための交流の場づくり



農泊におけるコンテンツの例

<SAVOR JAPAN>

食

<農作業体験>

体験

<アドベンチャーツーリズム>

他地域との交流の例

- ・八丈町による町民の小笠原親善訪問事業
- ・南アルプス市との中学生親善交流事業

主な論点(8)DXの活用について

- 内地の高度医療や専門医療を受診するための遠隔診療の導入
- オンラインを活用した教育の強化
- 点群データを利用した地形解析等を活用した防災対策の推進
- VRをはじめとするXR等の技術を活用したバーチャルな体験の提供などによる小笠原諸島の魅力の発信
- フィールドで使えるARナビゲーションの導入などによる観光客の利便性・満足度の向上

遠隔医療事例(遠隔読影システム)

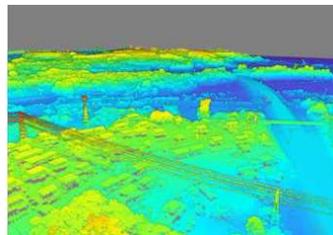


※東京都立広尾病院HPより

遠隔教育事例



点群データを用いた3次元図面



XRについて

VR	AR	MR
Virtual Reality 仮想現実	Augmented Reality 拡張現実	Mixed Reality 複合現実
▶ 仮想世界の中にユーザーが飛び込む =没入する	▶ 現実の世界に仮想世界を“拡張”させる	▶ 仮想世界と現実世界を“複合”させる
		

ARナビゲーション事例



主な論点(9)旧島民の帰島促進

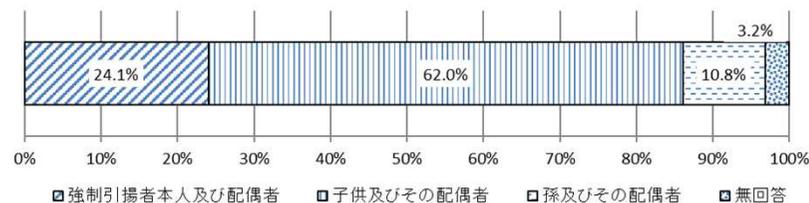
- 帰島を希望する旧島民を受け入れるための環境整備や帰島促進措置等の施策の継続的实施
- 旧島民の3世、4世等の若い世代が積極的に小笠原諸島に触れる機会を作り、小笠原諸島に定住してもらえるような施策の実施

旧島民アンケート結果(抜粋)

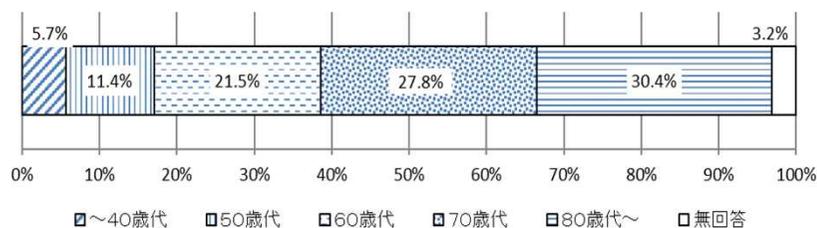
回答者構成

※発送数630件のうち158件の回答

(属性別)



(年齢別)



帰島希望状況

